



認知症の方とご家族のお話 高橋敏章さん Vol.2

若年性認知症の奥様と自宅で過ごされている高橋敏章さんにお話を伺いました。

【家にいるはずの妻がいない】

2 回行方不明になったことがありました。特に 2 回目は発見に 27 時間を要し、捜索にたくさんの人が協力してくれました。

フレンドリーよこすかの代表には Facebook にて妻の情報をいち早く流して頂いたため、有望な情報を早めに得ることができ大変お世話になりました。

【最悪のケースも覚悟した】

夜になっても見つからず、時間の経過とともに自責の念に駆られ、焦燥感で一杯になりました。

朝が明けても見つからず、覚悟したのは最悪の事態です。
直ちに捜索再開し、近親者に状況を連絡しました。

【迎えに行くと鬼を見るような険しい顔だった妻】

捜索二日目の昼過ぎ、妻発見の連絡があり、直ちに駆け付けたところ、私を見るなり鬼の形相で睨みつけてきました。

憶測ですが、「夜通し歩いていたのに何でもっと早く迎えに来なかったのか」との強い憎しみがそうさせたものと考えています。

いずれにしても無事で見つかり、安堵しました。すぐ家に連れて帰り、風呂に入れ軽食を取らせ寝かせました。次の日にはいつもの表情に戻っていました。

問い合わせ先:健康長寿課 介護予防係 (046-822-8135)